

セルフリノベーションによる空間と つくられ方・使われ方の特性に関する研究

STUDY FOR CHARACTERISTICS ABOUT HANDMADE SPACE AND MAKING THROUGH USING PROCESS ON SELF-RENOVATION

建築計画分野 富永 慧
Architectural Planning Satoshi TOMINAGA

SRには住まい手の思いが表れ、つくり方、使い方に影響を与えていると考える。そこで本研究では、SRによって構成される空間の要素を読み解き、限られた知識や技術、道具で作られた空間が住まい手らしさを表現し、使われていることを明らかにし、素人による建築空間の再評価をした。また、設計施工を反復することで知識を補い、空間を実現させていると考えられ、設計施工が開き方や使い方と密に関わりを持ち、内外の豊かさを創出していると考えられる。

I think that the thought of the household appears in SR, and it affects how to make and how to use it.

Therefore, in this research, I analyze the element of the space composed of SR, express the fact that the space made with limited knowledge, ability and tools expresses the likelihood of living, I reevaluated. In addition, it is thought that supplementing knowledge by repeating design and construction, realizing space, it is thought that design and construction closely relates to opening method and usage, creating richness both inside and outside.

1 はじめ

1.1 背景・目的

近年、建築を職としない素人によるセルフリノベーション（以下SR）が増加している。SRには施工費や材料費、人件費の削減というメリットがあるが、時間的制約、費用対効果という面を含め考えると必ずしも一般的に有意とも言いきれない。一方で、SRでは想像もつかない空間表現やつくられ方、使われ方がされている。またインターネットの発展に伴い、空間づくりの参考となるものも掲載されている。さらに地域や友人を巻き込んだSRも見られる。住まい手が行うSRには実施者の思いが表れ、住まい方、施工期間中の作り方に影響を与えると考えている。本研究では、SRによる空間の設計や材料、つくり方、開き方、使われ方を読み解くことで限られた知識や技術、道具で作られた

空間には専門家のつくる建築にはない空間が実現し、使われていることを明らかにし、SRによる建築空間のつくられ方、使われ方を再評価することを目的とする。

1.2 調査概要

大阪府全域を対象に使い手・住まい手主体でSRを行い、建築の専門家に全面的に依存しない実施者（17事例23名）に対して、写真での記録、図面（部位詳細図面含む）採集、SRに至るまでの経緯や進め方、使い方に関するヒアリング調査を行った。

2 SRに至るまでの経緯

2.1 物件選定方法

SRを前提に自分で探す事例[1]や不動産で紹介やDIY可能物件で絞り込む事例[2][3]もみられたが、各事例で物件選定において重要視している条件は異なり、一概にSR可能を前提としているとは言えず、立

表1 ヒアリング調査概要一覧

事例名	建築用途	所有形態	原状回復義務	建具除去	施工部位	化粧材料	床施工実施率	天井施工実施率	壁施工実施率	賃貸契約条件
ONA1	商業	持家	-	有	壁・床・天井	木材、塗料、ブロック、金属板	100%	100%	100%	
OAH1	事務所	賃貸	なし	有	壁・床	木材、漆喰	13%	0%	5%	民泊を営まないこと、構造躯体を触らないこと
OAH2	OAH2-a 住宅、事務所	賃貸	なし	なし	壁・床・天井	アルミホイル	85%	100%	100%	
	OAH2-b 住宅、事務所	賃貸	なし	有	壁・床	木材、塗料、漆喰	25%	0%	45%	好きなようにして良い
	OAH2-c 商業	賃貸	なし	有	壁・床	木材、塗料、壁紙、クッションフロア、折紙	100%	13%	100%	
OAH3	住宅	賃貸	なし	有	壁・床	木材、塗料、漆喰	19%	0%	71%	好きなようにして良い
OAH4	住宅、商業	賃貸	なし	なし	壁・天井	塗料	0%	10%	31%	店舗は自由、住居は実施前に報告
OAS1	住宅	賃貸	なし	有	壁・床	木材、塗料、漆喰、タイル	70%	0%	43%	内装は触って良い
OAS2	商業	賃貸	なし	なし	壁・床・天井	木材、塗料、クッションフロア	82%	82%	99%	SR可能
OHM1	住宅、商業	賃貸	なし	なし	壁・床・天井	木材、塗料、ブロック	51%	9%	100%	触って良いが手書きで計画を報告すること、近所と問題を起こさないこと
OHN1	商業	賃貸	なし	なし	壁	塗料、漆喰	0%	0%	100%	内装を自由にして良い
OFN1	住宅、事務所、商業	賃貸	なし	有	壁・床・天井	木材、塗料、漆喰、和紙	35%	36%	71%	DIY可能（口頭レベルでの契約）
ONT1	ONT1-a 事務所	持家	-	なし	壁	塗料、漆喰	0%	0%	47%	
	ONT1-b 事務所	賃貸	なし	なし	壁・床・天井	木材、塗料、壁土、布	97%	97%	100%	
	ONT1-c 事務所	賃貸	なし	なし	壁・床・天井	木材、塗料	83%	69%	66%	好きなようにして良いが要相談、住居利用不可
	ONT1-d 事務所	賃貸	なし	なし	壁	珪藻土、コルクシート	0%	0%	100%	
SSS1	商業	賃貸	なし	有	壁・床・天井	木材、塗料、漆喰、金属板	64%	45%	94%	

地環境 [4] [5] や家賃など総合的な選定方法がとられている。

表2 ヒアリング回答

<SRが前提> [1] 自分の足で探して交渉した方がいじれるとか安くなるとか /OAS1 [2] 不動産に安くて好きにいじっていい場所を探してるって /OHM1 [3] 2,3年前でHPも復旧して賃貸可能なDIYも出会える状況 /OFN1 <その他> [4] 地域にこだわってた方が強い /OAH1 [5] 職場で子どもを育てるのに阪南町が1番環境いいよって /OAH3

2.2 物件選定理由

(i) 将来像を想定

既存を見て魅力を感じたり完成像を想定したりする事例 [6] [7] がみられ、既存から手を加える必要があるか判断する事例 [8] もみられた。また、間取り図から使用法の想定をする事例 [9] や安く賃貸契約し、SRを実施しようとする事例 [10] もみられた。

(ii) 契約条件

全17事例に全て原状回復義務はないが、躯体に手を加えない条件や実施前に大家に声をかける条件が課せられている事例がある。(表1)

物件選定理由には大半の事例で既存の魅力や原状回復義務なしというSRを行うにあたり重要な要素が考慮されており、既存から物理的完成像や使用法を想定する事例がみられた。

表3 ヒアリング回答

<将来像> [6] ポテンシャルは感じて、間口の広さと天井の高さが決め手 /OHM1 [7] 窓がいい感じって思って、可愛くなるんちゃうんって /OHM1 [8] 外壁は元々白くていい感じ、白い壁で茶色い扉で必要ない /OAH4 [9] 汚かったけど間取り図見てたらおもしろいなって /OAH2-b/OAH2-c [10] ずっと住む予定ないし、自分たちでアレンジしていいし /OAH3
--

2.3 SRの理由・目的

(i) 必要性

必要性のあるSRには購入できないものの実現 [11] や既存の修復 [12] の場合があり、必要最低限のSRが行われている。

(ii) 趣味

趣味のSRには設計施工に自由度が生まれ、挑戦的 [13] で、空間の精度とは別に協力者との関わり [14] や実験的实施 [15] の方向に重きをおいている。

SRを行うきっかけとして必要性和趣味の場合で主に分類され、それぞれで必要最低限のお金 [16] で空間を実現させることも重要な目的であり、求められる基準や施工部位に差異が生まれていると考えられる。

表4 ヒアリング回答

<必要性> [11] 欲しいと思うものがないから、自分で作ろうと思う /OAH2-c [12] 借りてもらえるようにとおもって、ボロボロやった /ONT1-a <趣味> [13] 自分たちで作れるってちょっと期待があって、 /OAH3 [14] みんなで作ったら様子を見に来てくれるって思って /OAH2-c [15] youtuberみたいなものを目指してた <金銭面> [16] ずっとここでとは思っていないから低予算でするって感じ /OAH4
--

3 設計施工の進め方

(i) 多要素+協力で構成

[OAH2-b] の場合、床貼りを経験している [OAH1] を協力者としてともに材料選定や施工を行っている。また、漆喰はyoutubeやネットを参考に施工方法やペンキの混合が可能かを確認し、実施している。(図1) さらに、現在進行形で1F壁で行った漆喰塗りの経験を活かし、2F壁の漆喰塗りを行っている。(図2)

過去の経験やWSに参加し学び、自身の施工に移っている事例 [17] もみられた。設計や材料、施工それぞれで参考にすることがあり、設計や材料に関しては経験者 [18] や外出先 [19]、pinterest、ネット、本から知識を得て、施工ではyoutubeで学んだり、工務店の実施部位 [20] や既存の接合部 [21] を参考にしたりする。協力者には人工を考え効率性を図った事例とSRを機にコミュニケーションを図る事例 [22] がある。

(ii) 断念

[OAH2-a] の場合、最初に想定していた材料は高価で、最終選定した材料は薬局で購入可能で安価なアルミホイルが採用されている。また材料決定後、実施に入りアルミホイルの接着方法で試行錯誤している。さらに、実施途中で力尽き、部位完工に到達していないが大半を実施できたことに満足感を抱いている。(図3,4)

断念には寸法 [23] や使用方法、前部位の施行時の経験 [24] を活かした判断がみられ、材料では安価を求め、高価な材料を断念する場合や入手方法がわから

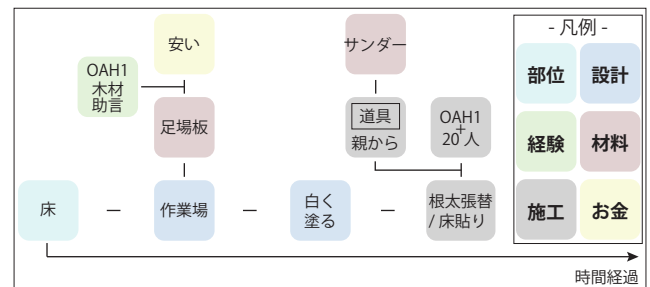


図1 [OAH2-b] 床のSRと各要素の関わり

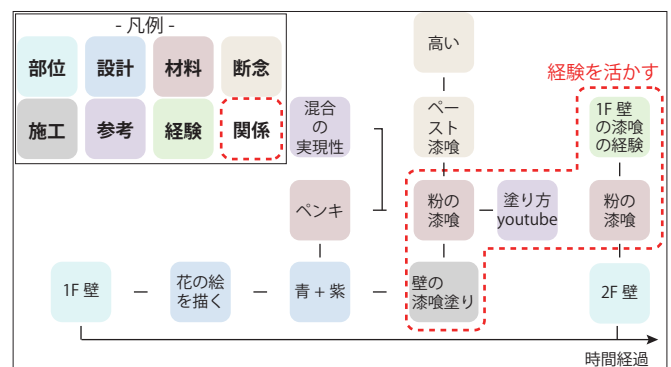


図2 [OAH2-b] 本人の経験

表5 ヒアリング回答

[17] 珪藻土を塗るWSに参加して /ONT1-d [18] 友人が1回塗ってた /OAH1 [19] どこかで使ってるのがあって頭の片隅に入れて /SSS1 [20] 友人の大工が砂利敷いてそれを真似して、 /OHM1 [21] ああこうなってるんやって、そこ見て /ONT1-b [22] ペンキ塗りじゃなく久しぶりって感じでお茶もして /OAH4
--

ず断念する場合 [25] がみられた。施工での断念には技術面 [26] や体力面、道具不足 [27]、拘束時間 [28] が原因としてあげられた。全事例で断念した要素はあり、自身の持つ空間のイメージと実現性に差異がある。

(iii) 最低限の材料で最大限の空間表現

[OAH4] の場合、ペンキとローラー以外購入したものはなく、材料費を抑え、買い足しもせず1色で壁・天井を施工している。また、ペンキを塗る際、養生はせず、汚れることを想定し内装業者の作業前にすべての工程を終わらせている。また天井の塗装は既存の汚れ隠しに行い、ペンキの量や施工技術、体力面を考慮し目立つ場所のみの施工だけに留めているが、結果として汚れは目立たずに空間を完成している。(図5,6)

最低限の材料を使用している事例には安価な1種類 [29] または頂き物 [30] の材料で空間を構成している場合があげられ、買い足しをせず使い切った時点で止めている事例もみられた。空間表現としては許容範囲内で作業終了している場合 [31] や他者が補完する場合がみられた。金銭面から発生する実施者の工夫だと考えられる。

(iv) 場当たり作業の経験と知識から出る連続性

[ONA1] の場合、庭のSRを終え、建築内部に入ってきた時に1F壁の素材がまだ決定していなかったが、庭からの連続性を考え、庭に使用していたパレットを

もう一度貼るという設計に至っている。全体像としては捉えることができていなかった建築空間の規模を場当たりに部位ごとに分割し、設計施工を進めていくことで経験を積み知識をつけ発見することで他部位の



図5 [OAH4] 壁→天井写真

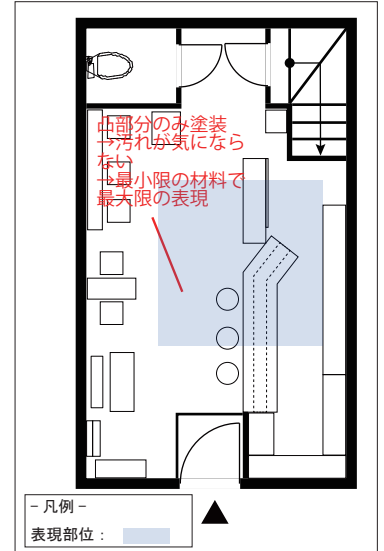


図6 [OAH4] 1F平面図 1:100

表7 ヒアリング回答

- [29] アルミホイルが1番安い〜意外と綺麗になった /OAH2-a
- [30] 知り合いの材木屋の人がこれはタダであげるって /OAS1
- [31] 足りてないし、向き逆やったし、いっかなみたいなの /OAH2-c

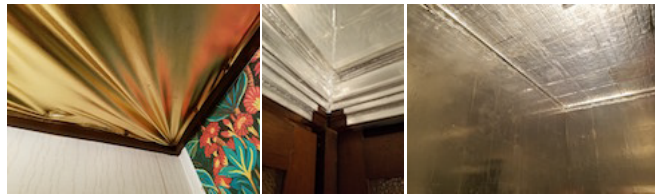


図3 [OAH2-a] 断念部位写真

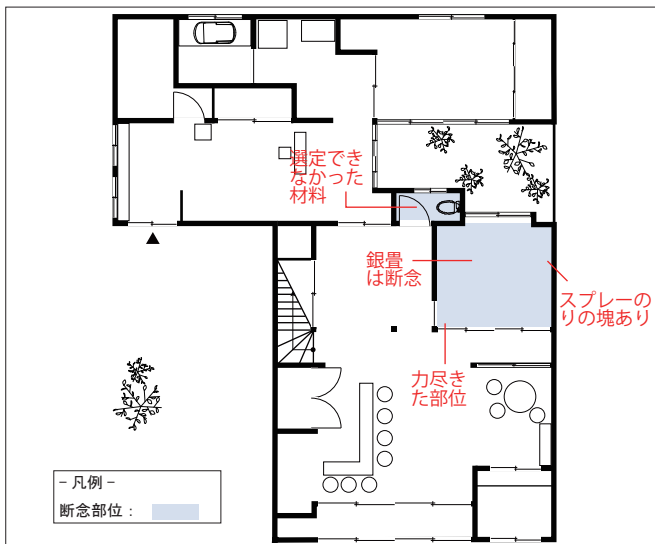


図4 [OAH2-a] 1F平面図 1:200

表6 ヒアリング回答

- [23] もうちょっと下にするはずやったけど限界 /ONT1-c
- [24] 油性ペンキを使ったらシンナー臭で近所に迷惑かけた /OHM1
- [25] 蛇籠がどこに売ってるか知らない /ONA1
- [26] 土間にする技術がない、めんどくさい /SSS1
- [27] (脚立で頑張ったけど) 上の方は届かなかった /OAH3
- [28] キッチンと同じ大きさと思ってたけど、めんどくさい /OAS1



図7 [ONA1] 連続しているパレット

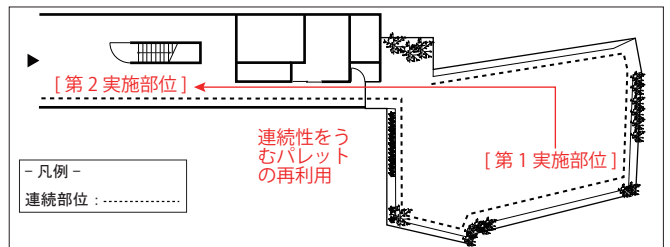


図8 [ONA1] 1F平面図 1:400

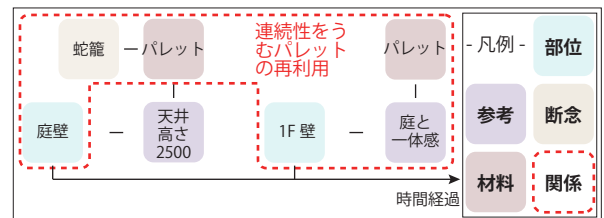


図9 [ONA1] の多要素関係図

表8 ヒアリング回答

- [32] 土間の方に砂利敷いてそれを真似して /OHM1
- [33] ここも天井抜けた方がええんやろうなって思い出して /OFN1
- [34] ある生地も継ぎ接ぎ、途中でなくなってこっからは白 /ONT1-b
- [35] 勿体ないから、塗ったら統一感が出てくる /OAH3
- [36] 切った残りもんをこっちに貼った /OAS2

設計構想に至っていると考えられる。(図7,8,9)

SRは設計施工の反復的の工程だが、各部位の実施を行うことで得た経験[32]や知識、出来上がった部位からの発想[33]が次の部位の空間構成の進め方に影響を与えており、空間の統一感を出すために同材料を使用[34]していたり、余った材料の消費作業[35][36]を行ったりしているため、全体の統一感を生んでいると考えられる。

(v) 未失敗部位あり

[OAS1]の場合、床材は数に限りがあったため、貼り切れていない部分がある。隙間幅は3~80mmまでであるが生活する中で問題は生じていない。(図10,11)

実施者にとって失敗は設計段階[37][38][39]や材料選定の時[40][41]であると考えられ、施工ミスは失敗としては判断されず実施者の施工技術能力での限界[42]で発生しているものだと捉えていると考えられ、使用上での問題発生の有無[43][44][45][46]が失敗の判断要素だと考えられる。

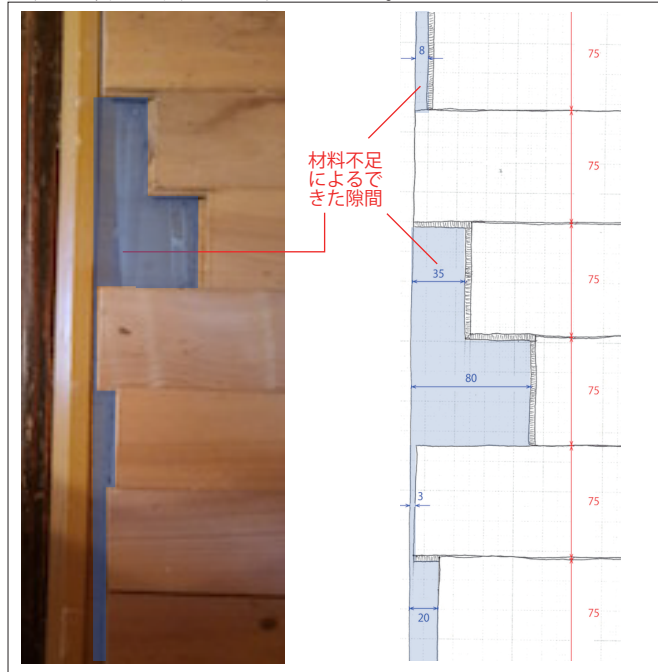


図10 [OAS1]の写真+詳細平面図

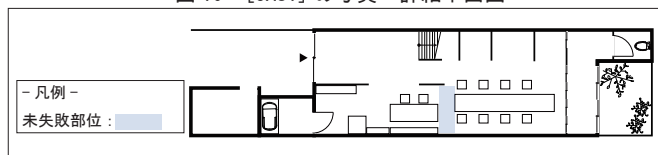


図11 [OAS1]1F平面図 1:300

表9 ヒアリング回答

<p><失敗> [37] 寸法ミスってたりとか計算間違えてたりとかある /OAH1 [38] 適当にこんくらいの間隔でいいだろうって /OHM1 [39] 垂壁は残しておけばよかったかな /SSS1 [40] 漆喰は全部失敗、木かボードをはった方が良かった /OAH3 [41] 思った以上に脆くてアルミホイルって /OAH2-a <許容範囲> [42] 最大のポテンシャルでやった、まっすぐ塗られへん /SSS1 <未失敗> [43] 天井とかみんな見ないしそれはまあいい /OAS2 [44] 使えてたらオッケーっていう感じ /OAS1 [45] 使えてたらそれでいい。最初の状態のこと考えたら /OAH2-c [46] 今言われて気づいた、失敗とは思ってないし支障はない /OAS2</p>

(vi) ビジュアルと機能の両立

[ONT1-b]の場合、壁は壁土で作られている範囲とペンキが塗られている範囲があり、その間に見切り材を入れ作業の効率化を図るとともに使用時に壁土に直接触れることを避けている。(図12,13,14)また天井に貼られている布は夏には外せるようになっており、天井が抜け涼しくなるように冬は暖房が効きやすくなるため閉じれるようになっており材料1つで可変性をもたせている。空間全体に対しても全面に布を貼ると弛みが出るため半分に作り直したり、土壁とペンキの範囲を高さ方向で半分にとっていたりビジュアル面での配慮も行っている。(図12,13,15)

ビジュアル面と機能面を両立させた事例には見切り

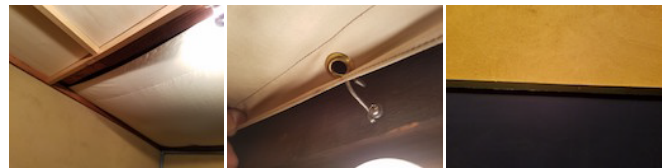


図12 [ONT1-b]天井-布、壁-見切り材

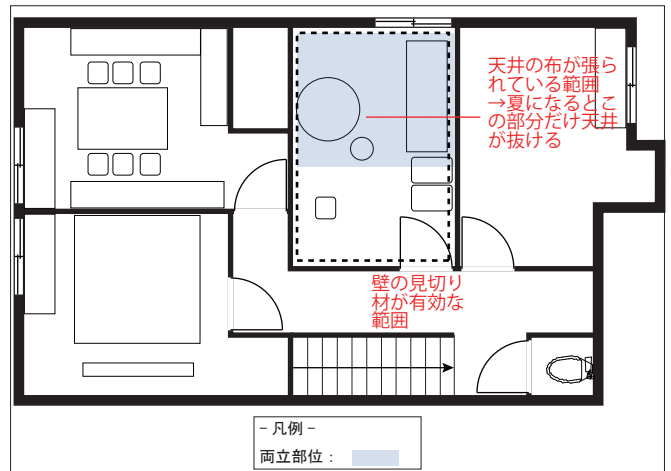


図13 [ONT1-b]2F平面図 1:100

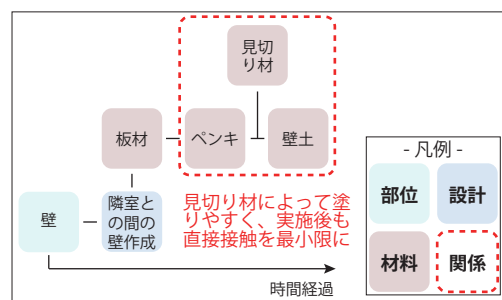


図14 [ONA1]の多要素関係図

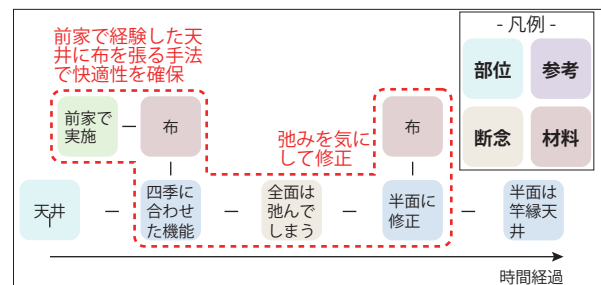


図15 [ONA1]の多要素関係図

表10 ヒアリング回答

<p>[47] エッジが綺麗に塗れへんから〜カバーする意味で /OFN1 [48] ALC板とコンクリートのちょうど間で段差を隠すため /OAS2 [49] 電気配線が全部入って /OAS2</p>

材を入れる配慮がされている事例がみられ、機能面として施工技術への補完 [47] や目隠し [48] [49] として働いていると同時に部位と部位の緩衝材としても働いている。

4 SR による空間特性と開き方、使い方

4.1 空間特性

SR による空間構成には限られた知識による空間表現が表れている。例えば、[OAH2-b] や [OAH2-c] の場合、建築資材ではないアルミホイルや折紙、クッションカバーを使用し、壁や天井を構成しており、これらが安価で入手容易であることが選定理由としてあげられる。また、アルミホイルによって構成された空間は天井の下地の模様がでたり、壁の板材の隙間がでたりすることで空間に立体感 [50] が生まれている。(図 16, 17) さらに、アルミホイルによる光の反射が四季による植栽の色の变化 [51] や照明の乱反射を手助けしているが、これらは実施者が予測していたアルミホイルの効果にはない効果が表れており、予想以上の効果を得ることができている。

限られた知識での実施が様々な情報を得ることにつながり、実施者の予測を超える空間表現が実現する場合 [50] [51] もあると考えられ、材料選定に建築資材を使用していない事例 [52] や協力者による空間構成、化粧材の連続性、空間の統一感が表れていたり、金銭面との関係で空間が構成されていたりする。また、未失敗部位や失敗部位がある場合でも他部位への実施を行い空間全体の構成を念頭に入れる事例がみられた。[OAS1] の場合、未失敗部位があるが、実施部位としては序盤の工程 (図 21) であり、他部位を施工する意欲がありその後壁を木材と漆喰の 2 種類の材料で空間としての統一感を出している。(図 18)



図 16 [OAH2-b] の空間特性

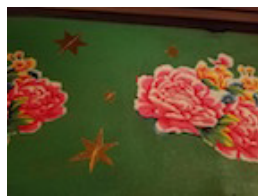


図 17 [OAH2-c] の空間特性



図 18 [OAS1] 1F 平面図 1:300 兼施工部位

表 11 ヒアリング回答

[50] 模様が出て立体感も若干でるし綺麗でいいかって /OAH2-b
 [51] 夏の昼、上に緑がバツと出て、めっちゃめっちゃ綺麗 /OAH2-b
 [52] 金の折紙を星に切って、余ったソファの布も使って /OAH2-c

4.2 空間

建築内の開き方は [OAH2-c] の場合、建具撤去で店舗の利用範囲を広げ、営業開始後イベントなどを開催しているが、その際店舗を拡張し、客が入るような態勢をとるために控え室やステージとして [OAH2-a] [OAH2-b] の実施範囲を利用している。(図 19) また、[OFN1] の場合、1F は店舗利用しており、建具撤去部分は全て店舗で、2F の建具撤去部分は全て事務所で。この事例では住宅兼事務所兼店舗として賃貸契約しているためそれぞれの諸室の間の建具のみを残したと考えられる。(図 20)

建具の撤去による建築内の空間の広がりを実現した目的には可変性を求めた場合 ([OAH2-c]) と用途での区別付けをした場合 ([OFN1]) に分類できる。また内外でみると [OAS1] の場合キッチンが未完状態

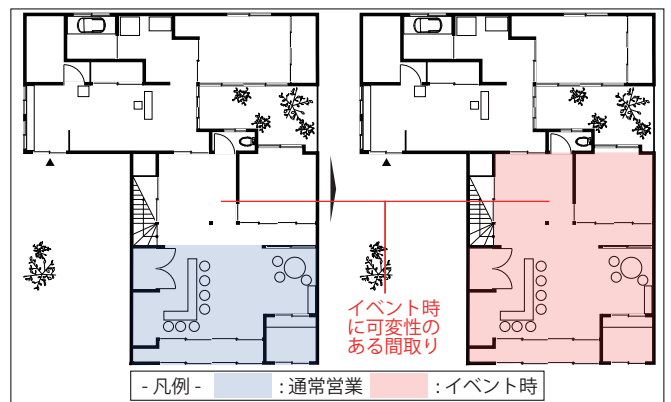


図 19 [OAH2-c] の営業方法の工夫

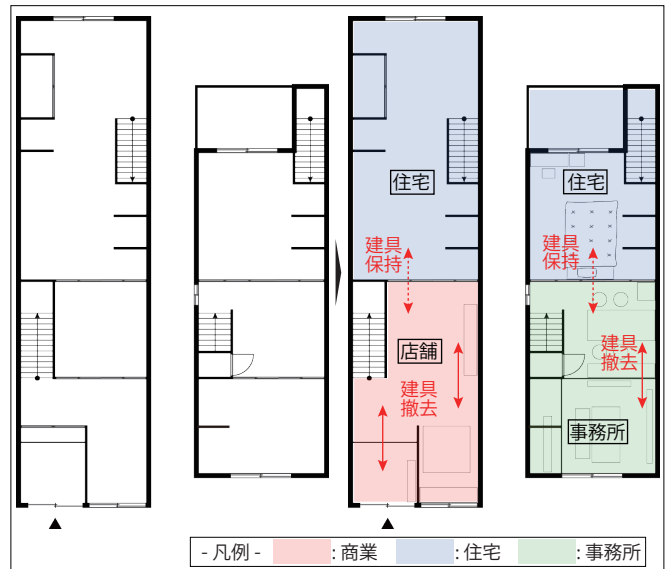


図 20 [OFN1] の SR 前と現在

で不特定多数の人に対して住み開きを開始している。また住み開き後も幾つか実施を行っている。(図 21) 実施中も SR に無関係の WS を開いている事例 [53] や

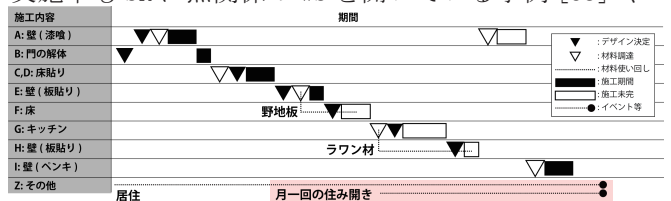


図 21 [OAS1] の工程と開き方

玄関を常に開放し道路から中が見えるようにしている事例 [54] [55] [58]、協力者を巻き込んだ SR の打ち上げをしている事例 [56] [57]、建築イベントの参加している事例 [59] がみられ、場当たりの進められる SR では、未実施の部位がある場合でもイベントや建築外へ開放的であると考えられ、協力者を呼び施工を行うことで人の集いやすい空間 [60] を実現させている。

表 12 ヒアリング回答

[53] 黄色の家具を作る WS をした /ONA1
[54] 中が見えへんくて誰がおるかかわからへんから開けてる /OAH1
[55] 地域の小学生が覗いてて、話をする事もある /OAH1
[56] できてないのに誕生日パーティーとかしてた /OAH2-c
[57] お礼パーティーみたいなの、まだ手え加えた /OAH3
[58] 友だちが近くよったから寄っていいとか /OAS1
[59] オープンナガヤに声をかけていただいて /ONT1-a
[60] みんなと遊びながらやったって感じ /OHM1

住まい手・使い手の評価としてビジュアル面、機能面で評価がある。施工精度 [61] [62] や選定した材料から得られる効果の差異 [63] [64] がビジュアル面での評価につながり (図 22)、使用時を想定した実施 [65] [66] や既存の性能に対する補完 [67] [68] が機能面での評価につながると考えられる。さらに周りからの評価は利用者のいる用途に対してはビジュアル面 [69] [71]、機能面 [70] [72] の両方がみられた (図 23)。また愛着は実施者だけでなく協力者にも当てはまり、実施後も様子を見にくる事例 [75] [77] がある。実施に参加していない友人を連れてきて協力部位の説明をしている協力者もみられた。[73] [74] [76]



図 22 [OAH3] のビジュアル面



図 23 [OAH2-c] の周りの評価

表 13 ヒアリング回答

〈ビジュアル面〉
[61] (壁の漆喰は前住人のところよりも) 僕のはましやな /OAH1
[62] もっとちゃんと塗ったらよかってん /OAH2-b
[63] 貼ったら天井の模様が出てくるのが良かった。 /OAH2-a
[64] 私が想像してたより濃かった、 /OAH3
〈機能面〉
[65] 分解も出来るし、一旦これでいいかなみたいな /OFN1
[66] 1 番奥だけはまだ下がってる、直してないで直したい /ONT1-c
[67] 暖房の効きが違う～長屋の人に教えてあげて欲しい /ONT1-b
[68] (床暖房の) 効きがめちゃくちゃ弱くなった。 /OAS1
〈周りの評価〉
[69] 壁紙ずれてることに注意してはった /OAH2-c
[70] お客さんが褒めてくれて。ペンキは砂壁抑るから /OAH2-c
[71] 綺麗になったねって感じ /OAH3
[72] リポートしてくれるし、～みんなに落ち着くって言う /OAS2
〈愛着〉
[73] 愛着もある、違う友だち連れて来てくれることもある /OAH2-c
[74] 友だち連れて遊びに偶然来てくれたりとか /OAS1
[75] 自分が作った愛着があるみたいで来てくれる /OHM1
[76] 壁は俺が塗ったとか、友だち連れて来てくれたり /OHM1
[77] 自分の場所みたいな感じがあって愛着がある /ONT1-d

4.3 部位

改善・修繕は部位を直す必要性の有無と時間の確保 [78]、体力面、技術面が大きな要因として考えられる。商業は開業前に SR の竣工時期を設け、全体の空間構成を 1 度行っているため開業中の再実施は考えにくいと思われる [79]。実施予定が立っている事例は機能面

での必要性を感じ [80]、実施願望のある事例はビジュアル面での必要性を感じている [81] と思われる。

表 14 ヒアリング回答

〈改善・修繕〉
[78] 空気を抜いたくらい、針を刺して～多少ましになった /OHA2-a
〈未実施〉
[79] 内装を変える予定は今はない出来る限りの事はしてる /OAS2
〈実施予定〉
[80] トイレは黒に塗った後、暗い感じで明るく塗ろうって /OHA3
〈実施願望〉
[81] 貼れてないところ半分ぐらいちゃんと綺麗にしたい /OHA2-a

4.4 使われ方

想定していた使い方から用途転用し使う事例 [82] と用途付加する事例 [83] がみられた。(図 24)



図 24 [ONT1-c] の用途付加の使われ方

表 15 ヒアリング回答

〈用途転用〉
[82] 結果キッチン～元々はシルクスクリーンと違って /ONT1-c
〈用途付加〉
[83] 結果できた隙間で物入れに使おかって感じ /ONA1

5 結論

物件選定の段階では一概には SR を想定した選定方法は取られていないが、選定理由には大半の事例で既存の魅力や原状回復義務なしという SR を行うにあたり重要な要素が考慮されており、既存から物理的完成像や使用法を想定する事例がみられた。また、SR を行うきっかけとして必要性和趣味の場合で主に分類され、それぞれで必要最低限のお金で空間を実現させる目的があり、求められる基準や施工部位には必要性和趣味によって差異が生まれている。

SR を行う際、空間表現には分野や質を問わず、様々なモノから手がかりを得て投影しており、それにより生まれる空間にもまた様々な要素が絡み、表現されている。また設計施工を反復し、試行錯誤することで自らの知識を補いつつ空間を実現させているため、各部位で得た経験や知識、出来上がった部位からの発想が次の部位の空間構成の進め方に影響を与えており、全体の統一感を生んでいると考えられる。さらに SR によって生まれた施工ミスは失敗としては判断されず実施者の施工技術能力での限界だと捉えており、機能性の面で不自由が出た場合、改善・修繕が試みられる。

SR で生まれた空間には設計施工が開き使い方と密に関わりを持っており、内外ともに豊かさを創出し、建築家のつくる建築空間にはない表現がされていると考えられる。

参考文献

- 1) 「賃貸共同住宅におけるセルフ・リノベーションの計画技術に関する研究」(西野雄一郎 / 2016. 3)
- 2) 「住み手からみたセルフ・リノベーションの特性と有効性 - 賃貸共同住宅におけるセルフ・リノベーションの評価 その 1 -」(西野雄一郎 / 日本建築学会計画系論文集, Vol. 81, No. 720, pp. 259-269 / 2016. 2)
- 3) 「ひと・もの・こととの連続性からみた Co-Renovation の可能性」(滝本強 / 大阪市立大学大学院修士論文 / 2017. 3)